

産業構造審議会・地域生活維持小委員会(第4回)

(1)省力化技術 ①ソフト分野(DX、AI)

ESの担い手不足が深刻化していく中、デスクワークの補完
バックオフィス機能の業務効率化・省力化等の可能性について

株式会社福岡情報ビジネスセンター
武藤元美

ホールディングス・グループ経営により中小企業の健全経営を支援 再建不能と評価された企業を再生する経営の要諦とは...

私たちグループの取り組み

・グループ全社で食とITの融合によるFoodTech事業に注力

・債務超過・事業承継問題の中小企業の再生に取り組み
「経営理念の浸透」「管理会計の導入」
「人事評価の導入」「DXの実践伴走」

この4つの施策により会社の文化風土を変え
社員のエンゲージメントを向上させ無借金経営とし
経常利益率約10%を目標に経営体質を改善する。

・経産省「DX支援ガイダンス」の検討委員
現在は「DXセレクション」選定委員



セキュリティ対策自己宣言



会社概要

株式会社福岡情報ビジネスセンター 代表取締役
Fbeiホールディングス株式会社 代表取締役
株式会社ケイエム(IT) 取締役会長
株式会社サンリッチ(食品卸) 代表取締役
有限会社アルファー(食品製造) 経営支援顧問
グループ170名

スペシャルオリンピックス日本・福岡 理事長
フィロソフィ経営実践塾福岡 代表世話人
一般社団法人事業承継サポート協会 名誉顧問
福岡大学産学連携協議会 共同会長 非常勤講師

2011年 盛和塾稲盛経営者賞
2019年 福岡県教育文化表彰
2021年 文部科学大臣表彰
2025年「日本IBMパートナーアワード」受賞
2026年 致知出版社 社内木鶏会全国大会選抜

私たちのMISSION・VISION・VALUE

MISSION(会社が何の為に存在しているか)

使命を抱き世の為に成る事業の目的意義を明確にする

食とITをテーマに生産者の成功を支援し、食卓に豊かさをお届けすると共にFoodTechプラットフォームとしてfoodlossを無くし、子供たちの貧困を無くし社会が応援したくなる会社になります。

VISION(会社の未来の姿)

10年後にこうなりたいという熱い思いを抱くこと

私たちのサービスが食社会のインフラとなり、全世界で利活用され、売上高100億円、経常利益20億円、ソウルメイトである従業員300人、所得倍増し、みんなをみんなを幸せにする全員経営を実践していきます。

VALUE(社内で共有する大切な価値観)

ミッション・ビジョンを達成するため行動の指針

私たちは、弛まぬ学びと仕事を通じて研鑽し、全員でフィロソフィを実践し人間として何が正しいかを追求して参ります。お客様の成功に全力を尽くし仲間のために尽くし、ご縁のあるソウルメイトのみなさまと共に、お互いが磨き砂となって心高め魂を磨き、生まれた時よりも美しい心になることを求めていきます。

ESの担い手不足が深刻化していく中、デスクワークの補完 バックオフィス機能の業務効率化・省力化等の可能性について

ES領域（医療・介護・保育・物流・インフラなど）は、現場業務が中心でありながらバックオフィスも膨大な事務作業を抱えています。しかし、人手不足・属人化・アナログ作業の多さが重なり、業務が回らない状況が広がっています。

バックオフィスDXは、こうした課題に対して「単なる省力化・効率化」ではなく、「業務プロセスそのものを変革」する手段となります。

特に以下のような問題が顕著です

- ①アナログ作業や二重入力の多さ
- ②慢性的な人手不足と残業過多
- ③属人化・情報共有の遅れ

DXによるデスクワーク補完・バックオフィス省力化・効率化の主な可能性

1. 定型業務の自動化(RPA・AI)

- ・ 請求書処理、勤怠集計、データ入力などの繰り返し作業を自動化
- ・ 人的ミスの削減、生産性向上に直結
- ・ 中小企業でも導入しやすいサービスが整ってきている

2. クラウドサービスによる業務の標準化・省力化

- ・ クラウド会計、クラウド勤怠、電子契約など
- ・ 紙・押印・郵送といったアナログ作業を削減
- ・ リモートワークやスマートフォンによる場所を選ばない効率性の向上

3. ペーパーレス化とワークフロー自動化

- ・ 申請・承認フローを電子化
- ・ 書類管理の手間を大幅に削減
- ・ 情報共有のスピードが向上

DXによるデスクワーク補完・バックオフィス省力化・効率化の主な可能性

4. チャットボット・FAQシステムによる問い合わせ対応の削減

- ・ 人事・総務への問い合わせを自動応答
- ・ 担当者の負担を軽減し、コア業務に集中できる

5. 業務の可視化と標準化

- ・ 業務棚卸し → ボトルネック特定 → 改善
- ・ 属人化を防ぎ、誰でも回せる仕組みづくり
- ・ DX導入の第一歩として重要

6. 外部リソース (BPOやBPaaS(Business Process as a Service)) の活用

- ・ 経理・給与計算・労務などを外部に委託
- ・ 少人数でも高品質なバックオフィス運用が可能

7. マニュアル作成DX

- ・ 動画と音声マニュアルにより属人化を防ぎ、誰でも回せる仕組みづくり

DXによるデスクワーク補完・バックオフィス省力化・効率化の主な可能性

8. AIの活用による省力化・効率化

- ・経理・財務 請求書・領収書の自動データ化・仕訳
AI-OCR技術を用いて紙やPDFの帳票を読み取り
勘定科目などをAIが推測して会計システムへ自動入力
経費精算のチェック・承認、入金消込の自動化など
- ・人事・労務 社内問い合わせのAIチャットボット対応
勤怠・労務管理、給与計算サポート
- ・法務・総務 契約書レビュー・リーガルチェック
議事録の自動作成、ドキュメントの要約
採用時の経歴書・業務経歴のマッチング
広報・通達・案内資料の作成支援

9. 電子決済による省力化・効率化

- ・QRコード決済による現金管理の煩わしさの解消

DX推進のステップ(実務的ロードマップ)

STEP1: 業務の可視化と課題整理

どの業務が負担になっているか
どこに二重入力や紙作業があるか
属人化している業務はどれか

STEP2: DX化する業務の選定

効果大きい業務
自動化しやすい業務
現場の負担が大きい業務

STEP3: ツール・サービスの選定

RPA・AI(ChatGPT・Gemini・claude・Copilot・・・)
コミュニケーションツール(LINE・Chatwork・slack・zoom・teams・・・)
クラウド会計・勤怠・給与(freee・moneyfoword・BillOne・・・)
電子契約・文書管理システム (CloudSign・・・)

DXがもたらす効果(ES領域で特に重要なポイント)

- ①生産性向上 : 自動化により現場支援や企画業務に時間を回せる
- ②コスト削減 : 作業時間の短縮、外注との最適分担
- ③正確性向上 : ヒューマンエラーの減少、データの一元管理
- ④属人化の解消 : 業務標準化やデジタルマニュアルにより引き継ぎが容易に
- ⑤働き方改革の推進 : リモート対応、柔軟な働き方が可能に

ES領域では特に、
「現場の負担を減らし、限られた人材を最大限活かす」という観点が重要です。

ES領域の担い手不足は今後さらに深刻化するため、
バックオフィスのDXは「現場を支えるための必須インフラ」になりつつあります。